

ファイナルレポート

国際ラボテクノロジー・分析機器・バイオテクノロジー・診断技術専門見本市
インド・ハイデラバード / ハイテックスエキシビジョンセンター
2025年9月18日～20日

2025年 9 月 25 日

analytica Lab India & Pharma Pro&Pack Expo 2025
ハイデラバードで記録的成果を挙げた

Summary

- 展示面積 50,000 平方メートル超、10,000 点以上の革新的な製品を展示
- 25 カ国以上から 32,149 名の専門家が来場
- 国内外のバイヤー384 社を招待、1,341 件のバイヤー・セラー商談を実施

Facts & Data

会 期	2025年 9 月 18 日(木)～28日(金) 10:00～18:00(最終日17時)
会 場	インド・ハイデラバード / ハイテックスエキシビジョンセンター
主 催	Messe Muenchen India Pvt Ltd Messe Muenchen GmbH
規 模	50,000㎡(2024 年:35,000 ㎡)
出 展 企 業	650社(2024年:14カ国から528社)
来 場 者 総 数	25カ国から32,149人(2024年:24カ国から24,533人)
専 門 分 野	ラボ技術、バイオテクノロジー、ライフサイエンス、光学、研究&リサーチ
主 な 出 展 品	分析技術・機器:分析機器、クロマトグラフィー、分光測定機器、顕微鏡検査、光学画像処理 検査・測定・品質管理:産業品質管理、材質試験、材質評価、薬品産業品質管理 ラボテクノロジー:ラボ用機器・技術・設備、ラボ用データシステム、化学製品・試薬・消耗品 ライフサイエンス・診断:バイオアナリシス、バイオケミカル、バイオインフォマティクス、ライフサイエンス関連ラボ・バイオテクノロジー
出 展 日 本 企 業 (現法出展等含む)	(株)共立理化学研究所、(株)島津製作所、(株)ダイセル、輝達商事(株)、東京化成工業(株)、東ソー(株)、日本ジェネティクス(株)、(株)日立ハイテク、富士フイルム和光純薬(株)、(株)ワイエムシー 他
専 用 U R L	www.analyticaindia.com (英語)

2025年9月25日、analytica Lab India 2025 と Pharma Pro&Pack Expo 2025 の併催見本市がHITEX Exhibition Centreで開催され、ハイデラバードは、科学・技術・ビジネスが見事に融合する舞台となった。3日間にわたって、会場は革新の熱気に包まれ、人々の交流と共にアイデアが自由に行き交い、研究・産業・国際協業の境界が自然に溶け合う空間へと様変わりした。

科学とスポーツの世界をつなぐ架け橋役として、インドのクリケット・オールラウンダー Ravindra Jadeja氏が analytica Lab India 2025 のブランド・イメージキャラクターに起用された。鋭い直感力、規律ある姿勢、安定したパフォーマンスで広く称賛されているJadeja氏は、精密性・一貫性・卓越性という、ラボラトリーや製薬業界が追求するクオリティそのものを体現している。これらの特性は、見本市で披露された数々の革新技術やソリューションに余すところなく発揮されていた。

総面積5万平方メートルに及ぶ7つの展示ホールで開催されたこの併催見本市では、650社余りの出展者が1万点を超える革新的な製品とソリューションを紹介した。最先端の実験機器から高度な製薬機械に至るまで、見本市会場は、ライフサイエンスおよび製薬バリューチェーンにおけるインドの役割を、テクノロジーがいかに再定義しているか、その全体像を俯瞰的に捉えることのできる場となった。

インド国内外から32,149人ももの来場者を迎えた見本市は、「Epicentre of Progress(進歩の中心地)」というテーマにふさわしい盛況ぶりを見せた。参加規模の大きさだけでなく、質の高い対話や、ミーティングルームで成立した取引、そしてカンファレンスホールで掻き立てられた探究心こそが、このイベントの真の価値である。大手製薬メーカーや先駆的な研究者から、スタートアップ企業、政策立案者に至るまで、多様な参加者が集ったこのイベントは、効率性・持続可能性・グローバル競争力を追求する産業エコシステムの方向性を如実に表していた。

特に来場者の関心を集めた展示のひとつが Software Pavilion であり、デジタルラボやスマートファクトリーの未来を垣間見る場となった。ここでは、AI、機械学習、ロボティクス、IoT、自動化技術が、コンプライアンス体制から生産効率に至るまでのあらゆる領域に及ぼす影響について紹介されている。これらのテクノロジーは、既に最新のラボラトリーや製薬工場の運用原則を塗り替えつつある。

会場内に設置された Innovation Launchpad は、革新性の高いデジタル展示エリアである。ここでは、AIやロボティクスなどの先端技術の紹介を中央スクリーンに映し出し、来場者を各テクノロジーの紹介ブースへと誘導して、直接体験できるよう設計されている。単なる展示ではなく、来場者の課題や関心に応じて、最も関連性の高いアイデアへと導くナビゲーションの役割を果たしている。

国際パビリオンとドイツパビリオンは、見本市に明確なグローバル性を添える存在となり、国際的交流ハブとして機能した。ヨーロッパ、アジアをはじめとする各国の代表団は、先進システムや高度エンジニアリング技術、最先端機器を披露し、インドの関係者に対して、世界中のラボラトリーや製薬工場を形づくる技術を直接目にする機会を提供している。これらのパビリオンは、見本市が科学とビジネスが融合する国際的な場として機能していることを、鮮やかに印象づけた。

Hosted Buyer Program と Buyer-Seller Forumでは、製品を見せるだけでなく、売買や契約につながるような実務的な商談の場が、展示フロアの外にまで広げて設けられていた。384名のホステッド・バイヤーとの間で、1341件余りの構造化された商談が進められ、出展者は大規模購買の決定権者と直接つながる機会を得た。KDPMA(カルナータカ製薬製造業者協会)、IDMA(インド製薬製造業者協会)のグジャラート州支部とタミル・ナードゥ州支部、MPSDMA(マディヤ・プラデーシュ中小製薬業者協会)、APPON(ネパール製薬生産者協会)など、最大手製薬業界関連団体の代表団が、この取り組みに箔をつけた。また、バイヤーの参加地域は、デリー、チェンナイ、グワハティ、アーメダバードといったインド国内の主要都市に加え、英国、米国、ドイツ、韓国、日本、シンガポール、スリランカ、ネパール、エジプト、南アフリカ、ガーナ、ヨルダン、ケニアといった世界市場に広がっている。ハイデラバードが、インドの製薬・ライフサイエンス産業が世界とつながる玄関口としての地位にあることを、改めて印象づけた。

知識共有の場もまた、極めて充実していた。3日間にわたるカンファレンスプログラムでは、先進的な知見と実践的な洞察を融合させた。初日は、インド分析機器協会(IAIA)との共催による Intelligent Lab に焦点を

当て、自動化とコンプライアンスを特集。2日目は、インド製薬連盟(IPA)との連携のもと、「科学の革新」と「製薬業界2030の創造」という二つのトラックを展開し、製薬業界における持続可能な分析技術とロボティクスが取り上げられた。最終日は、臨床研究・医療専門家協会(SCRMP)との共催により、Analytics Advantage(分析の優位性)をテーマに、品質・安全性・規制対応の卓越性について掘り下げた。50名を超える著名な専門家が登壇した各セッションは、学術的な議論ではなく、業界の進むべき方向性とその実現手段を具体的に探る実践的な対話の場となった。

analytica Lab India & Pharma Pro&Pack Expo 2025の展示会場は、多様性に富み、活気に満ちた空間となり、その熱気は会場全体にあふれていた。出展者からは、製品を披露する場にとどまらず、意義ある対話の扉を開く機会となったとの声が寄せられている。

出展者、来場者、共催者それぞれの視点が交わることによって、今回の見本市は規模の大きさのみならず、その影響力の強さをも際立たせた。つまり、この見本市は、抽象的発想としてのアイデアを実践的可能性のある機会へと変え、その機会を、ラボラトリーと製薬業界の将来に向けた確固たる約束へと結実させる出会いの場として機能したのである。

2026年の展示会開催予定は以下のとおり

□ analytica Lab India 2026 & PharmaCore India 2026(併催)
2026年4月22日(水)～24日(金)
会場: Jio World Convention Centre(ムンバイ)

□ analytica Lab India 2026 & Pharma Pro&Pack Expo 2026(併催)
2026年9月10日(木)～12日(土)
会場: HITEX Exhibition Centre(ハイデラバード)

詳細情報ならびに写真は、専用ホームページ www.analyticaindia.com まで

資料請求、出展申込み、各種お問い合わせ先:メッセ・ミュンヘン 日本代表部株
式会社メッセ・ミュンヘン・ジャパン
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-20-3 ノアーズアーク虎ノ門 5階
Tel.: 03-6402-4583 Fax: 03-6402-4584 E-mail: info@messe-muenchen.jp URL:
www.messe-muenchen.jp (日本語) www.messe-muenchen.de (英語/ドイツ語)